

# インタビュー さくら

by 村上博美



坂井滋郎氏

坂井滋郎氏は北大、MIT、ハーバード大学を経て、ケンブリッジ大学にて博士号取得。現在、米国医療食品管理局（FDA）に研究員として勤務する。FDAにて新生児の免疫メカニズム解明の研究に取り組む坂井氏に話を伺った。

「日本の方がFDAに働くのは珍しいですね。今のお仕事の内容を教えてください。」

人間の免疫細胞に関心があつた。特に新生児の免疫に関する研究を行っています。世界で年間400万人が主に感染症で亡くなっている。新生児はワクチンの反応も弱く持続効果も低い。新生児の免疫が成人と比べてなぜ低いのか、メカニズムを細胞レベルで解明したい。

私の働いているFDAは日本の厚労省と似ていて、新しい薬が商品化される前に承認する機関です。また、企業が提出したデータが申請された通りなのか治療を行う他に基礎研究もや

「以前からこの分野に関心があつたのですか？」  
高校のころは物理学が好きで、将来的にはロボット工学をやりたいと思つていました。大学はナノマシンの開発にかかわれたらいいなと思つて機械工学を専攻し、日本で修士課程に進みました。そこでは細胞の機能について面白いな、と思つて機械工学からバイオエンジニアリングの分野へ。当時バイオエンジニアリングの人が生物学をかじる風潮だつた。私は、生物学をしっかりとやってみよう、新しいことをやりたいと思つたんです。

「米国や英国などの大学院などへ留学生として行かれたんですか？」  
修士の時に、オーストラリアに留学経験があつた研究室の先輩が「そういう意識があるなら海外で勉強した方がいいよ」とアドバイスをくれた。ただ周りに海外に行った人がおらず「ど

うやって行つたらいいんだろう？」その当時のMixiというSNSで、MITに行つた人を探し出し「どうやってMITに行つたのか」聞いてみた。「やる気があるんだら、いろんな人にメールしてみたら？」といわれ、自分の目からうつろが落ちた。面識のない人に「自分はこういうことをしたいので受け入れてくれないか」というメールを送つてもいいんだ、ということがすごく驚きだつた。彼に言われるまで考えたことはなかつた。それから色々な先生に問い合わせ、MITの先生から「じゃあ、うちにきてやってみよう」と返事が来た。1年間研究させてもらえる機会をもらったのははじまりです。

「ハーバード大学、ケンブリッジ大学と、ご自分のやりたい研究に進まされていきますか？」  
MITで所属した研究室はエンジニアリング色が強く、英語の問題もあつたが先生とあまり相性がよくな

自分だけ周囲も遅れているというハンデイはあります。でも、他の人がやっていない分野を知っていると、新しい視点を提供できる。自分のモットーは、一度やると言つたことは、なにかしら結果が出るまでやり遂げる、走りきつてから考える。結果が出ないうちに辞めるということはやりたいくないんです。

「子供のころはどんな環境で育つたのですか？」  
小学校の頃から転勤が多かつたことが自分の「もの見方」に大きく影響していると思つています。新しい所へ行くことへのハードルがものすごく低い。逆にいうと、ひとつのところに居ると落ち着かない。大学も「北海道行つてみたい」と決めたし、ボストンや英国も「新しいところに行つてみたい」と抵抗なく行けたのは、

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」

「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」  
「他人のやっていない分野で新しいことを」



研究室で実験している様子

**インタビュー**  
**村上博美** むらかみひろみ  
Japan Institute for Social Innovation and Entrepreneurship (JSIE) 代表。日本と米国にてグローバル人材育成ワークショップを開催。ワシントンDC経済戦略研究所 (ESI) や戦略国際問題研究所 (CSIS) などの研究員を務め、2015年に503(c)3非営利団体 JSIE (www.jsie.net) を創設。米国経営学修士、米国ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院 (SAIS) 国際関係論博士。

## ワシントン日本語学校

ワシントン日本語学校は、1958年に創立された世界で最初の海外補習校です。週一回、土曜の活動で、幼稚園から高等部までの一貫教育を通し、日本語力の維持・向上、及び日本文化の習得を目的としています。

日頃から本校の活動にご理解、ご支援賜る皆様に改めまして心よりお礼申し上げます。引き続き何卒よろしくお願ひいたします。

**2020年度新規入学生募集**

2020年4月入学生の募集を開始しました。  
本校ホームページ [www.wjls.org](http://www.wjls.org)  
「2020(令和2)年度新規入学生受付開始」よりお申し込みください。

WASHINGTON JAPANESE LANGUAGE SCHOOL  
TEL: 301-962-7410 | Email: [wjls@wjls.org](mailto:wjls@wjls.org) | [www.facebook.com/WJLSofficial](http://www.facebook.com/WJLSofficial)  
NONDISCRIMINARY POLICY 当校はいかなる人種・肌色・国籍・民族の生徒も受入れています。

博士号は簡単にはとれない。アメリカでは博士号は尊敬の対象であり、博士号取得の過程は長く厳しく、途中でドロップアウトする人も山ほどいる。生物学を専ら学び、しかも海外で認められた大学で博士号を取りたいと思つてきた。厳しくても実力主義のアメリカの環境が自分には向いていると思つています。

「今後の抱負をお聞かせください。」  
将来的には自分の研究室をもちたい。方向性を定めて、研究プロジェクトを主導するということです。まだ覚悟がきめられないのは、どんなにすごい先生でも自分の研究室の資金をとつてくるべく、毎日毎日グラント申請を書いてもその中の1/2個しか通らないということ。果たして自分が同じように資金を取り続けられるのか。研究は小さな会社のように、資金が滞ると雇用の対象は長く厳しく、途中でドロップアウトする人も山ほどいる。生物学を専ら学び、しかも海外で認められた大学で博士号を取りたいと思つてきた。厳しくても実力主義のアメリカの環境が自分には向いていると思つています。

「ぜひ研究結果がカタチとなつて、すごいインパクトのある薬がでてくるのを楽しみにしています。」